



腫瘍のうち、どれくらいが乳腺腫瘍？

■ 乳腺腫瘍の発症率^{※1}（犬全体）

腫瘍疾患の発症率の高いゴールデン・レトリバーにおいて、6歳から9歳の間は男の子に比べて女の子のほうが腫瘍発症率が高かった（アニコム家庭どうぶつコラムvol.008）ため、腫瘍疾患の中でも、女の子に特徴的な乳腺腫瘍の発症が多いと予想された。そこで、犬の0～12歳の契約を対象として、給付金請求データをもとに乳腺腫瘍の発症率、つまり犬の全契約頭数に対する乳腺腫瘍の請求のあった犬の割合を調べたところ、女の子で

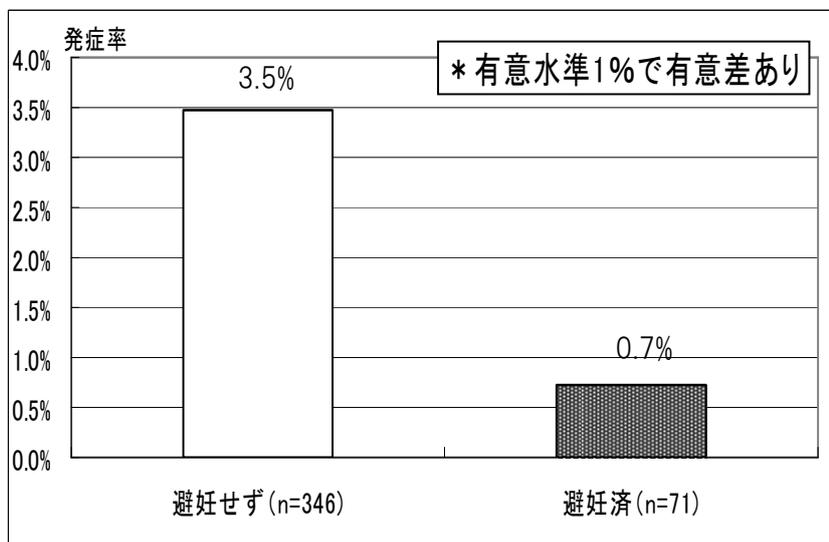
2.86%、男の子で0.04%であった。 男の子でも、6歳で2頭、10歳で2頭の請求があった。

また、臨床現場や研究論文など^{※2}では「避妊手術をうけていれば、乳腺腫瘍になりにくい」といわれていることから、避妊の有無による差を調べた。結果、**避妊手術をうけていない女の子の犬の乳腺腫瘍の罹患率が3.5%**と、**避妊手術をうけている女の子の犬の乳腺腫瘍発症率0.7%よりも、高かった（図1）。**

※1 契約期間中に、腫瘍疾患で1日以上通院した犬を「発症した犬」とし、各犬種の契約頭数に対して「発症した犬」の割合を算出。

※2 Schineider R, et al J Natl Cancer Inst. 43:1249-1261,1969

【図：乳腺腫瘍の発症率（犬、女の子）】



※ 2006/10/1～2007/9/30にアニコムクラブ「どうぶつ健保」と契約した0歳～12歳の犬(女の子)を対象に調査

※ 対象:106,509頭

**女の子の乳腺腫瘍の予防には、
避妊手術が効果的と考えられる**

